

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成26年6月5日(2014.6.5)

【公開番号】特開2014-74162(P2014-74162A)

【公開日】平成26年4月24日(2014.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2014-021

【出願番号】特願2013-186945(P2013-186945)

【国際特許分類】

C 0 8 L 69/00 (2006.01)

C 0 8 L 25/04 (2006.01)

C 0 8 K 3/40 (2006.01)

C 0 8 K 3/22 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 69/00

C 0 8 L 25/04

C 0 8 K 3/40

C 0 8 K 3/22

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月27日(2014.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリカーボネート樹脂 30～100重量%、およびスチレン系樹脂 70重量%以下を含む樹脂成分 100重量部に対し、ガラスフィラー 10～100重量部、およびレーザーダイレクトストラクチャリング添加剤 2～20重量部を含み、前記レーザーダイレクトストラクチャリング添加剤が、スズを主成分としアンチモンを含む組成物で被覆された、酸化チタンを含む金属酸化物粒子を含む、レーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項 2】

前記スズを主成分としアンチモンを含む組成物に含まれる金属成分の 1～30重量%がアンチモンである、請求項 1 に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項 3】

前記レーザーダイレクトストラクチャリング添加剤は、酸化スズ 70～95重量%および酸化アンチモン 5～30重量%を含む、請求項 1 または 2 に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項 4】

前記酸化チタンを含む金属酸化物粒子における酸化チタンの含有量が、90重量%以上である、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項 5】

前記ガラスフィラーが、平均繊維長が 200 μm 以下のガラス繊維である、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項 6】

前記ガラスフィラーが、ポリオレフィン樹脂およびシリコン樹脂から選択される少なくとも１種の収束剤で被覆されている、請求項１～５のいずれか１項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項７】

樹脂成分として、スチレン樹脂を１０重量％以上含む、請求項１～６のいずれか１項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項８】

さらに、エラストマーおよび／またはリン系安定剤を含む、請求項１～７のいずれか１項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物。

【請求項９】

請求項１～８のいずれか１項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物を成形してなる樹脂成形品。

【請求項１０】

さらに、表面にメッキ層を有する、請求項９に記載の樹脂成形品。

【請求項１１】

携帯電子機器部品である、請求項９または１０に記載の樹脂成形品。

【請求項１２】

前記メッキ層がアンテナとしての性能を保有する、請求項１０または１１に記載の樹脂成形品。

【請求項１３】

請求項１～８のいずれか１項に記載のレーザーダイレクトストラクチャリング用樹脂組成物を成形してなる樹脂成形品の表面に、レーザーを照射後、金属を適用して、メッキ層を形成することを含む、メッキ層付樹脂成形品の製造方法。

【請求項１４】

前記メッキが銅メッキである、請求項１３に記載のメッキ層付樹脂成形品の製造方法。

【請求項１５】

請求項１３または１４に記載のメッキ層付樹脂成形品の製造方法を含む、アンテナを有する携帯電子機器部品の製造方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００４３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００４３】

被覆組成物に含まれる金属成分のうち、スズが５０重量％以上を占めることが好ましく、６０重量％以上を占めることがより好ましい。また、アンチモンは１～３０重量％であることが好ましく、１～２０重量％であることがより好ましい。被覆組成物に含まれるスズが酸化物である場合、酸化スズは、被覆組成物中、７０～９５重量％であることが好ましく、８０～９０重量％であることがさらに好ましい。被覆組成物に含まれるアンチモンが酸化物である場合、酸化アンチモンは、被覆組成物中に、５～３０重量％であることが好ましく、１０～２０重量％であることがより好ましい。